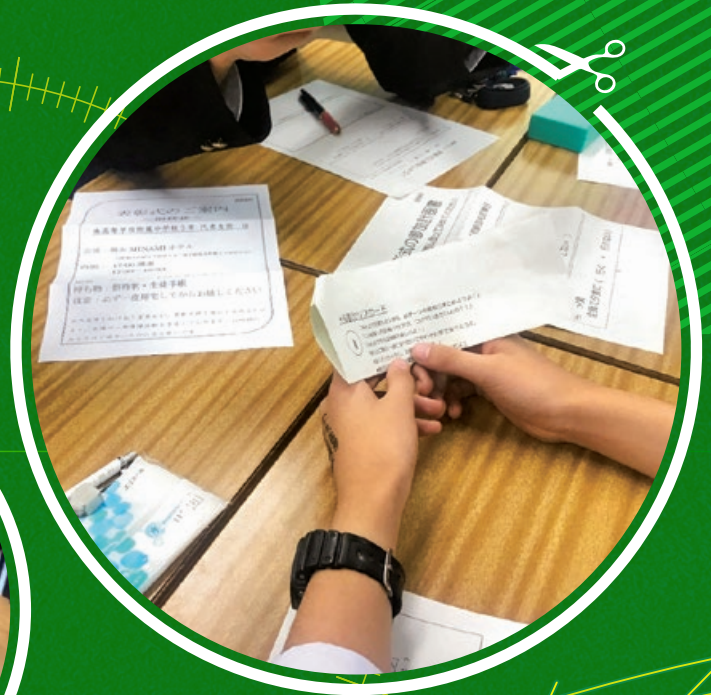
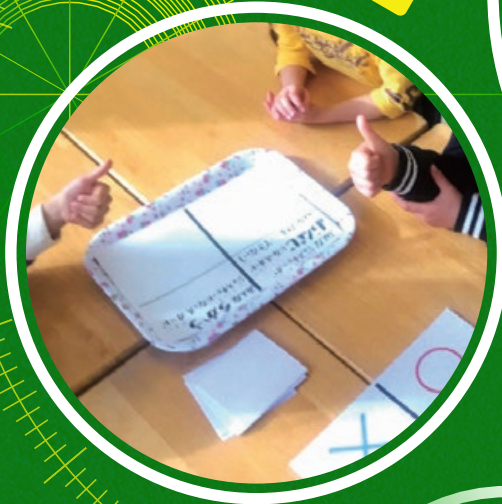
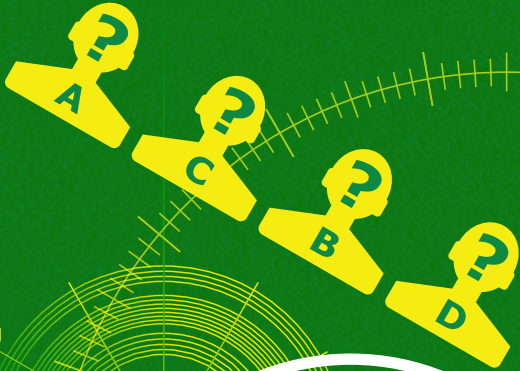


W  
O  
R  
K  
S  
H  
O  
P



学校や地域で活用できる!

# 多文化共生ワークショップ集



2018年度 JICA横浜 教師海外研修参加者作成

研修国：ブラジル連邦共和国

## 参加型アクティビティ教材

独立行政法人国際協力機構  
横浜センター（JICA横浜）



## はじめに

本書を手にとっていただきありがとうございます。本書は、2018年度 JICA 横浜教師海外研修の参加者が、研修の一環として作成したワークショップ（参加型アクティビティ教材）を基に編まれています。各参加者が実際に実践したワークショップは、本書に掲載しているものを各自がアレンジしたものですので、みなさまにも、ぜひ学習者・参加者に合わせてアレンジしていただきたく思っています。

本研修のテーマは「多文化共生と移民」でした。事前研修では、海外移住資料館や JICA の方から日本人移民や JICA の取り組みなど、多くを学びました。また、事前研修の一環として行われた鶴見地区へのフィールドワークでは、国内における多文化共生の姿や、地域で多文化共生の活動をしている方々にお会いするなどして、多文化共生についていろいろなことを考えました。本書に掲載しているワークショップは、事前研修や、ブラジル連邦共和国での現地研修で私たちが学んだこと、気づいたこと、または疑問に思ったことなどを基に作られたものです。ワークショップ作成にご助言、ご協力いただいた方々に感謝いたします。

## 私たちが考える「多文化共生」「共生」について

多文化共生は静的な概念ではなく、「多文化が共生する文化をつくる」、などのような動的なものです。そもそも「文化」とは人が問題を解決するなど生きるために工夫を重ねてつくられてきたものです。多文化が共生する文化をつくるためには、必然性がない表面的議論では深まらず、切実な課題意識を持つことが重要です。また共生については、A or B の枠組みで一方が支援するというのではなく、また単に異なるものが同じ空間を共有するというだけでなく、また文化を認め合うだけでもなく、誰もが安心して違いを出しながら豊かになることを目指し共に生きることだと考えています。多文化が共生することで、例えば、A と B が互いの違いから自己や自分の中の文化の多層性等に気づき成長したり、A と B が互いになかったものを補い合ったり、A と B で新しいものを創造する等、違いを生かして共に豊かになれば、こんなに素敵なことはありません。本研修では、特に外国につながる児童生徒との共生の意を込めましたが、当然のことながら障がい者やその他のマイノリティ、あるいは自分とは異なるすべての他者との共生を「多文化共生」と捉えています。

## 本書の使い方

本書に掲載しているワークショップは、新しい知識を教えたり、何かを諭したりするというよりも、学習者・参加者の気づきを促すことをねらっています。指導者（ファシリテーター）も、学習者・参加者と一緒に楽しんだり、考えたり、悩んだりしてほしいと思っています。

カードやシートには、外国につながる児童生徒や小学校低学年の児童たちのために、できるだけルビをつけました。本書をコピーして使っていただいてもよいですし、JICA 横浜のホームページから印刷していただくこともできます。また、これらのワークショップを作成した研修参加者の実践についても、JICA 横浜のホームページに「2018年度 JICA 横浜教師海外研修報告書」として、詳細が掲載されています。各自の実践の工夫や児童生徒の反応、本書には掲載しきれなかったアレンジ版等、ぜひ参考にしてみてください。

## 2018年度 JICA横浜 教師海外研修参加者

No.	氏名	参加形態	学校名	学年・担当教科
1	青山 仁美	参加者	横浜市立並木第一小学校	1年・全教科
2	石井 宏明	参加者	川崎市立 <sup>しほくち</sup> 子母口小学校	6年・全教科
3	江本 敦子	参加者	横浜市立潮田中学校	2年・英語
4	齋藤 若菜	参加者	横浜市立南高等学校附属中学校	中学1年／3年・国語
5	櫻木 萌季	参加者	神奈川県立横須賀明光高等学校	1年・地理歴史
6	中山 史也	参加者	中央市立 <sup>たどみろみ</sup> 田富南小学校	6年・全教科
7	山本 エメリン	参加者	横浜市教育委員会国際教育課	国際理解
8	中野 貴之	同行者	JICA横浜	
9	福田 訓久	同行者	株式会社メディア総合研究所	

※本書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。

※参加者の所属等は、2018年度のものであります。

# 目次

## はじめに

### ワークショップ：ジェスチャー・ワールド ……6

ジェスチャー指示カード ……11

イラストカード（日本語版と英語版） ……12

ロールプレイカード ……16

紙芝居 ……21

### ワークショップ：「あたりまえ」ってなんだろう？ ……27

表彰式の案内 ……30

計画シート ……31

役割カード ……32

あたりまえカード ……36

# ジェスチャー・ワールド

## キーワード

多文化共生、異文化理解、カルチャーショック、相互理解

## はじめに

本ワークショップは、2つのアクティビティで構成されています。1つ目は、ジェスチャーだけでコミュニケーションを図り、グループのメンバーの共通点を探すゲームです。2つ目は、ブラジルから来た日系3世の女の子（「エメリンちゃん」）が日本の学校に転入した時に体験したカルチャーショックを演じるロールプレイです。

世界では、国や地域によって異なるジェスチャーが使われていたり、習慣が違ったりします。多くの人が、その文化の違いの存在を知っていますが、普段の生活において、その違いで困ったことが、どれだけあるでしょうか。1つ目のジェスチャーゲームでは、ジェスチャーを通して異文化に触れ、あたりまえだと思っていたことが人と違ったり、文化の違いによる誤解がある時に、自分たちがどう感じ、どう動くのかを体験します。

2つ目のロールプレイでは、カルチャーショックの実話を即興で演じることで、外国から日本の学校に来た子どもたちの見方、考え方を体験し、相互に理解し合うことの大切さへの気づきを促すことを目指しました。このロールプレイは、ブラジルから横浜の中学校に転入したエメリンという女の子の実話から生まれました。寸劇を演じさせることで体験的に学ばせることができますが、小学校低学年などには、ロールプレイの代わりに紙芝居の読み聞かせをしてみてください。

## 対象

小学生、中学生、高校生、大学生、教員

## 活用できる教科

総合的な学習（探究）の時間、道徳、外国語活動 など

## ねらい

- ①多文化が共生する文化をつくるためには、相手の背景にある文化を理解し、配慮することが大切であることに気づく
- ②あらゆる人々の多様性を尊重し、共生するためのコミュニケーションの在り方を考える

## 教材内容：

解説書

ジェスチャー指示カード

イラストカード（日本語版と英語版）

ロールプレイカード

紙芝居

所要時間	45分～	準備するもの	ジェスチャー指示カード（グループ分） イラストカード（グループ分） ロールプレイカード（グループに1枚ずつ）
1グループの人数	4～6名		

## 進め方

<p><b>導入</b></p>	<p>4~6名のグループで着席させる 2つのアクティビティを行う授業であることを説明する。</p>
<p><b>1つ目の アクティビティ ジェスチャー ゲーム</b></p> <p><b>ルール説明</b></p> <p><b>練習</b></p> <p><b>共通点探し ゲーム開始</b></p> <p><b>グループ替え 【必須】</b></p> <p><b>2回戦目</b></p>	<p>世界には色々なジェスチャーがあることを、日本で使われている私たちが普段使っているジェスチャーと他国のジェスチャーを紹介しながら伝える。 例)人を呼ぶときにはどうやって呼びますか? ➡ 手首を振っておいでおいでをする。 アメリカではこのジェスチャーは「あっちいけ」の意味でとられたりします。</p> <p>「ここからは絶対に話してはいけません」(ルール:話してはいけない) ジェスチャー指示カードA、Bを配布 ※カードは2種類あるため、半分のグループには指示カードAを、もう半分のグループには指示カードBを配布する。</p> <p>「カードには『はい』と『いいえ』のジェスチャーが書いてあります。話をせずにジェスチャーの確認をしてください。」と伝えて、ジェスチャーの練習をさせる。 指示カードは必ず回収する</p> <p>「それではこれから、共通点探しゲームをします。ここに、イラストカードがあります。イラストカードを見ながら、『できる』か『できない』か、Yes, Noをジェスチャーで答えてください。」 イラストカードを配布</p> <p>「グループの全員が同じ答えになるカードをできるだけ多く集めてください。カードは上から順番にめくって行ってください。ただし、絶対に話してはいけません。先ほど覚えたジェスチャーだけを使ってください。時間は3分間です。」</p> <p>「それでは始めます。よーいスタート!」 話さずに、ジェスチャーだけで進めているかを見回りながら確認する。 時間が来たら終わりの合図をする</p> <p>「はい、終了です。同じ答えになったカードは何枚集まりましたか?」と言い、 同じカードの枚数を数えさせる ➡ 一番多く集まったグループに拍手</p> <p>各グループから2~3名を他のグループへ移動させる ※この際、ジェスチャー指示カードAを使っていたグループと指示カードBを使っていたグループが混合になるようにする。【必須】</p> <p>「では、2回戦目を始めましょう。できるだけ多く共通点を見つけましょう。絶対に話してはいけません。」 ※2回戦目は、教えたジェスチャーが違うので合わないことが多くなるはず(前回と違って、マッチングする数が減る)。 時間が来たら終わりの合図をする</p> <p>「どうですか?いくつか共通点が見つかりましたか?」と言い、 同じカードの枚数を数えさせる</p>

	<p>「最初の時より、ずいぶん減りましたね? どうしてだと思いますか? ここからは話してもいいので、グループで話し合ってください。」      前回よりも共通点が見つかりにくくなったことについて、  <b>グループで話させる</b>      →「何が起こったと思いますか?」と聞き、<b>何人かに質問する</b></p>
<p><b>ジェスチャーゲームの種明かし</b></p>	<p>「実はYes Noのジェスチャーを、半分のグループに反対に教えていました。まさかルールが違うとは思わなかった人が多かったのではないのでしょうか。何も疑わずに、あたりまえのようにゲームを進めていたはずです。      このゲームでは、私たちが日常生活でもっている「あたりまえ」について考えてほしかったのです。このゲームで言えば、『Yes Noのジェスチャーは同じだろう』というのが「あたりまえ」ということになっていたと思います。」</p> <p>「他の人と『あたりまえ』が違うと思ったとき、どう思いましたか? 困惑しましたか? 怒りましたか? 投げ出しそうになりましたか? 根気よく続けましたか?」  <b>何人かに質問する</b></p>
<p><b>2つ目のアクティビティ</b></p> <p><b>ロールプレイ</b></p> <p><b>ロールプレイの説明</b></p> <p><b>練習</b></p> <p><b>発表</b></p> <p><b>カルチャーショックの理由説明</b></p>	<p>「それではここから、短い寸劇を演じるアクティビティをしたいと思います。ある女の子の物語を読んで、その内容をグループで1分以内の劇で表現してもらいます。      カードには、海外から来た女の子(エメリン)が実際に体験したカルチャーショックが書かれていますので、それが伝わるように演技してほしいと思います。」</p> <p><b>ロールプレイカードを配布する</b>      ※ロールプレイカードは5種類あるが、グループ数が多い場合は2グループずつに同じカードを配布するなどしてもよい。</p> <p>「それでは、カードをよく読んで、四角で囲んである部分の劇を作ってください。劇の長さは30秒から1分程度でお願いします。それでは今から3分間で準備してくださいね。全員が何かの役割をするようにしてください。」  <b>各グループで劇の準備をさせる</b></p> <p>「では、劇を披露してください! どのグループからしてくれますか?」  <b>発表させる</b> →拍手!      ※劇のタイトルや、カードの説明部分は発表させず、四角で囲まれた部分のみを演じてもらうこと。</p> <p>「演技を見ていた皆さん、どのようなことが起きたと思いますか? どんなカルチャーショックだったのでしょうか?」</p> <p><b>何人かに聞いてみる</b>      その後、ロールプレイカードの「理由」部分を読んでもらい、  <b>カルチャーショックの理由を共有する</b>      ※ファシリテーターが「理由」の部分を読んでよい。</p> <p>他のグループにも発表してもらい、その都度同じ質問を繰り返す。</p>



<p><b>ふりかえり</b></p>	<p>ジェスチャーゲームでは、自分が思い込んでいる「あたりまえ」が、他者のあたりまえと違うことを体験した。</p> <p>ロールプレイでは、カルチャーショックとして、「あたりまえがあたりまえではないこと」の例を知ることができた。その上で、</p> <p><b>以下のような発問をしながら、気づきを引き出す</b></p> <p>「ジェスチャーゲームでは、自分があたりまえだと思っていたことが、実はそうではなかった体験をしましたが、ロールプレイでは、ゲームではなく、実際にあった例を知ることができました。」</p> <p>「ジェスチャーゲームでなかなか共通点が見つからなかった時、どのような気持ちになりましたか？」</p> <p>「エメリンの実話から、特に印象に残ったものはどれでしたか？ 説明を聞いたとき、どのように感じましたか？」</p> <p>「なぜ、エメリン以外の方は、あのような態度をとったのだと思いますか？」</p> <p>「エメリンに対してどのような態度をとったらよいと思いますか？」</p> <p>「この授業をする前と今では、他者を理解することについて何か考えが変わったことはありますか？」</p>
---------------------	--

留意点 ●17頁、26頁の「舌打ち」について：

学習者の発達段階によっては、舌打ちが良い印象を与えないことを理解していないこともあるので、補足説明をするとよい。

●18頁の「知らない・分からない」について：

「知らない」と「分からない」を区別しないで無意識的に使うこともあるが、使い分けの方がより意図が伝わることもある。この例にある場面では、「知らない」よりも「分からない」を使った方が良かったという本人の体験を記している。

「2018年度 JICA 横浜教師海外研修報告書」(冊子および JICA 横浜ホームページにも掲載)には、以下の校種・教科での実践事例があります。

小学1年生「外国語活動」

小学6年生「国際教育」

中学2年生「道徳」

実践の工夫や児童生徒の反応、本書には掲載しきれなかったアレンジ版等、ぜひ参考にしてみてください。

また、JICA 横浜ホームページには、本書のPDF版が掲載されていますので、カード、シートや紙芝居などを印刷することができます。

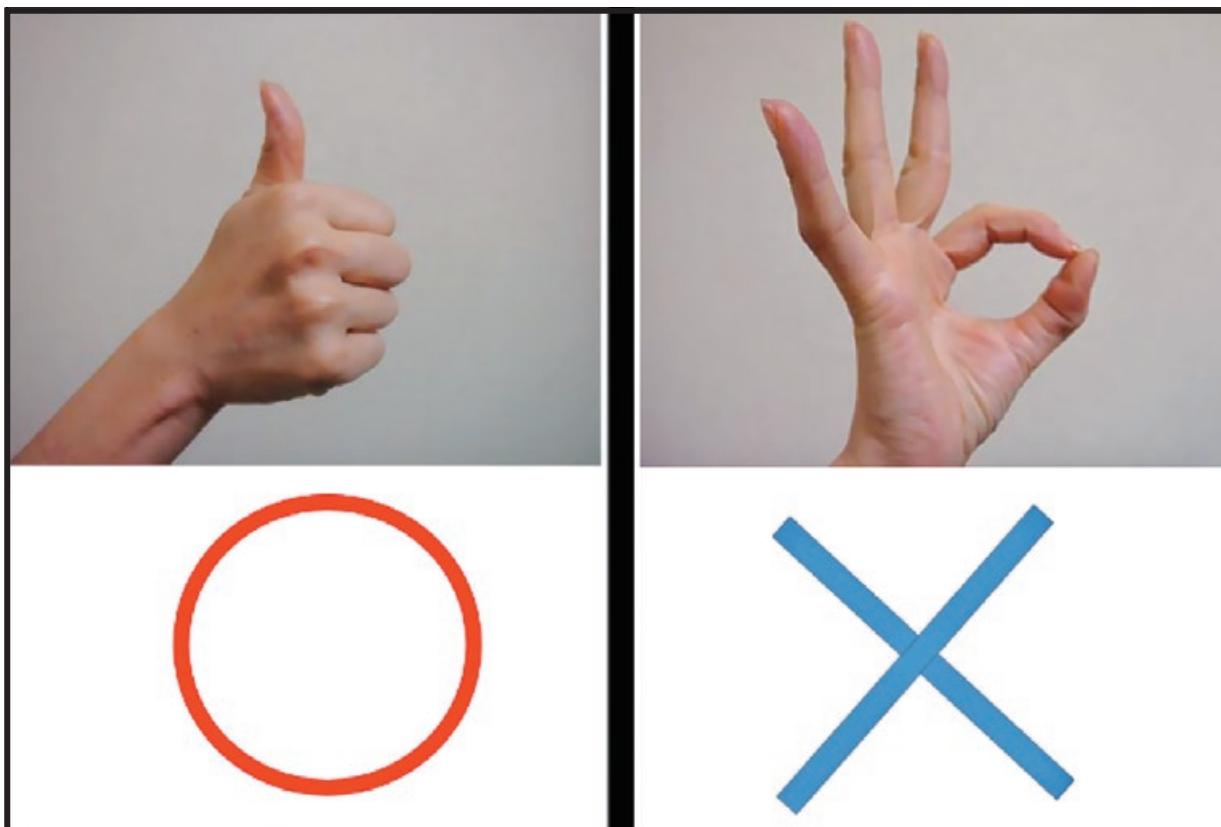
JICA横浜 教師海外研修

検索 

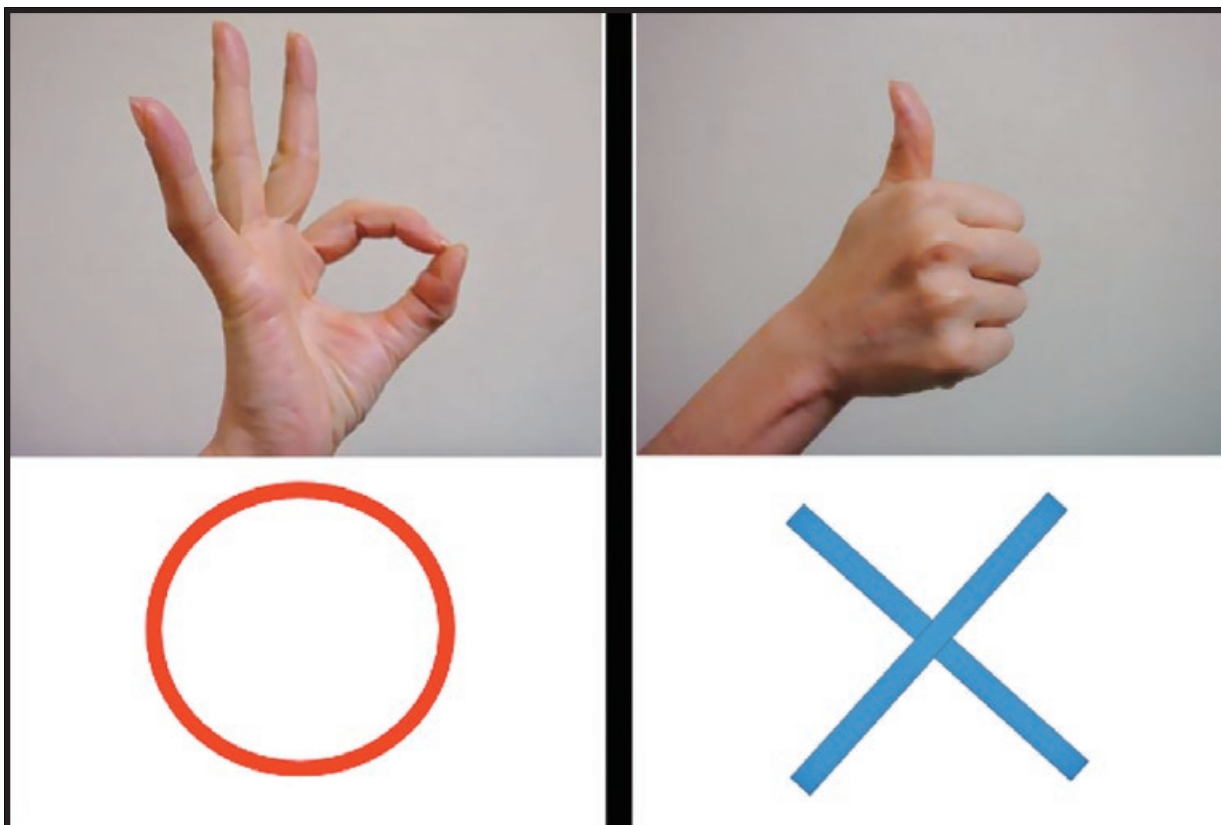
## ジェスチャーゲームを外国語活動等で実施する際のスキット例

導入	<p>Today we are going to study some gestures from other countries! Please make a group of 4 people.</p>
<p>ルール説明</p> <p>練習</p> <p>共通点探し ゲーム開始</p> <p>グループ替え 【必須】</p> <p>2回戦目</p>	<p>I'm going to teach you the gestures. From now on, you must not speak. (ルール:話してはいけない)</p> <p>ジェスチャー指示カードA、Bを配布</p> <p>※カードは2種類あるため、半分のグループには指示カードAを、もう半分のグループには指示カードBを配布する。</p> <p>Let's try! This card shows you how to present "yes" and "no" by gestures. Without speaking, please practice "yes" and "no" gestures.</p> <p>指示カードは必ず回収する</p> <p>Now, let's play the matchin game!</p> <p>イラストカードを配布</p> <p>Look at the cards and answer if you can do what a card is shown. I want you to answer "yes" or "no" by the gestures that you learned just now. The question is "Can you?" You have to find the common answers all of your group members. The group who finds the most matchings will be a winner. You have only 3minuts. Ready start!</p> <p>時間が来たら終わりの合図をする</p> <p>Time is up!! How many matchings can you find? 同じカードの枚数を数えさせる → 一番多く集まったグループに拍手</p> <p>All right. Now let's change the group. 各グループから2~3名を他のグループへ移動させる</p> <p>※この際、ジェスチャー指示カードAを使っていたグループと指示カードBを使っていたグループが混合になるようにする。【必須】</p> <p>Let's try the second round! Remember not to speak but use only the gestures. ※2回戦目は、教えたジェスチャーが違うので合わないことが多くなるはず(前回と違って、マッチングする数が減る)。</p> <p>時間が来たら終わりの合図をする</p> <p>Time is up!! How many matchings can you find this time? 同じカードの枚数を数えさせる</p> <p>What happen? What do you think? Please talk about it in the group. グループで話させる</p>
ジェスチャーゲームの種明かし	<p>To tell the truth, I taught you different gestures. How did you feel when you were different from others?</p> <p>何人かに質問する</p>

ジェスチャー指示カード A



ジェスチャー指示カード B





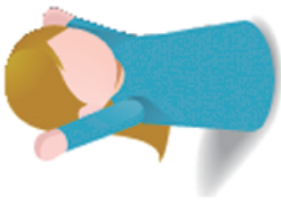
上手に歌うこと



泳ぐこと



絵を描くこと



おどること



料理すること



一輪車に乗ること



スキーすること



ジャンプすること



自転車に乗ること



スケートすること



速く走ること



ぞうじすること



縄跳びすること



お手玉すること



ゴルフすること



柔道すること



剣道すること



リコーダーをひくこと



ピアノをひくこと



ギターをひくこと



ドラムをたたくこと



アコーディオンをひくこと



バイオリンをひくこと



将棋をすること



けんだますこと



バドミントンすること



野球すること



サッカーすること



卓球すること



バレーボールすること



sing well



swim



paint



dance



cook



ride a unicycle



ski



jump high



ride a bicycle



skate



run fast



help my friends



jump rope



juggle



play golf



do *judo*



do *kendo*



play the recorder



play the piano



play the guitar



play the drums



play the accordion



play the violin



play *shogi*



play *kendama*



play badminton



play baseball



play soccer



play table tennis



play volleyball

# 山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック!!

じっさい  
実際にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 / Bは先生

1

ぶんか  
文化

はじ  
初めて日本の学校に行き、学校に入った瞬間  
せんせい おこ  
先生に怒られて、なぜ怒られているか分からなかった。

チャイム：キーンコーンカーンコーン

A 転校生：「ここが学校かー、ここが入口かな？」中に入る

「あれ？だれもいないなー。」

B 先生：「あら？あなたどうしたの？遅刻ですよ！」

A 転校生：「え、なんかいきなり怒られた！なんで怒られているんだろう？」

B 先生：「あら、外靴のままじゃない？うわばきにはきかえなさい！」

A 転校生：「うわばきって何？どうしてこの先生怒っているの？怖い！」

り ゆう  
理由

せんせい かいがい てんにゆうせい  
先生は私が海外からの転入生だったことを知らなかった。私も日本の学校に入るために上履きと言う靴に交換しないといけないことを知らなかった。さらに、ブラジルでは時間通りにくるといことは言われた時間にその場所に着けばいいので、日本で言う5分前集合を知らなかった。



# 山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック!!

じっさい  
実際にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 / B、Cは一般生徒

2

ぶん 文化

友だちと話していた時、一生懸命考えていることを伝えようとしたら、相手が怖い顔を始めた。

A 転校生：「今日は先生の誕生日だからみんなでサプライズしない?」『チッ』  
(舌打ちをする)

B 生徒1：「?」(舌打ちされた?首をかしげる)「いいね。なんの曲にする?」

C 生徒2：先生が入ってきたら、「パースデーソング」をみんなで歌おう!

A 転校生：『チッ』「いいね!やろう!」

B 生徒1：「みんなで練習しない?」

A 転校生：『チッ』

C 生徒2：「ねえ、やりたくないならそう言ってよ。みんな行こう。」

転校生 A を残して、みんな出ていく。

り 理由

ブラジルでは舌打ちをして『チッ』の音を出すことが普通で、無意識でしている時がほとんど。日本のようにイライラしているときや、むかつくときには使いません。ブラジルでは考えている時、何か思いだした時、予想が当たった時などに舌打ちをします。

# 山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック!!

じっさい  
実際にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 / B、Cは一般生徒 / Dは先生

3

ことば  
言葉の  
いみ  
意味

こくさいきょうしつ せんせい  
国際教室で先生に日本語を教えてもらっていたとき、  
私の答え方に先生が怒り始めた。

D先生：今日は今までの復習をしましょう。先生の質問に答えてください。

Bさん、あしを何をしますか？

B生徒1：友達と買い物に行きます。

D先生：Cさんはあしを何をする予定ですか？

C生徒2：あしは家族と映画を見に行きます。

D先生：そうですか。Aさんは明日なにをしますか？

A転校生：知りません！

D先生：知りませんか？どうして自分の予定を知らないの？

A転校生：知りません！

D先生：そんなわけないでしょう！

り ゆう  
理由

ブラジルの公用語であるポルトガル語では『知らない』と『分からない』は同じ言葉を使います。日本語の「わかりません」と「知りません」の意味のちがいがわかっていなかったため、なんでも「知らない」と答えてしまい、相手に嫌な印象を与えてしまいました。

# 山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック!!

じっさい  
実際にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 / Bは一般生徒

4

ぶんか  
文化

はじ  
初めて日本に来て、友達を作りたかったのでフレンドリーに接していたら、どんどんみんながはなれていって、怒っている雰囲気にもなった。

A 転校生 : あの子は同じ教室の人だ! あいさつしに行こう!

(ハグしようとする)

B 生徒 : え、何? いきなりだきつこうとしてきた。

A 転校生 : あれ? なんでさけるの?

B 生徒 : やめてよ。(逃げる)

A 転校生 : みんなに逃げられた。わたしはさいたのか?

り ゆう  
理由

自分の国では相手と会った時に抱きしめたり、話している時にボディータッチ(髪、肩、手に触ったりする)したりするのが普通なので、自然に出てしまった。特にあいさつは初めて会った人でも、ハグをしてほほにキスをします。

# 山本エメリン、11歳で初めて日本に来た時のカルチャーショック!!

じっさい  
実際にあった話

ロールプレイ：Aは海外から転校してきた生徒 / B、C、Dは一般生徒

5

ことば  
言葉の  
いみ  
意味

学校内で「ある言葉」をたくさん聞いたので、学校の中に孤児院のような場所があると思って、探しましたがなかなかみつからなかった。

B生徒1：先輩！こんにちは！

C生徒2：先輩、話があります！

D生徒3：先輩、元気ですか？

A転校生：えーみんなはセンパイなんぞー。大変ぞー。

学校に住んでるのかな？

へや  
部屋はどこかな？探してみよう！（教室を見て回る）

みつからない！不思議ぞ学校ぞ！

り  
理由

ブラジルの公用語であるポルトガル語では『先輩』の意味はSEM『ない』PAI『お父さん』なので、『親がない』ということだと思いました。親がない生徒たちが住んでいる場所が学校の中にあると思っていました。

# 低学年用 紙芝居

青山仁美 作

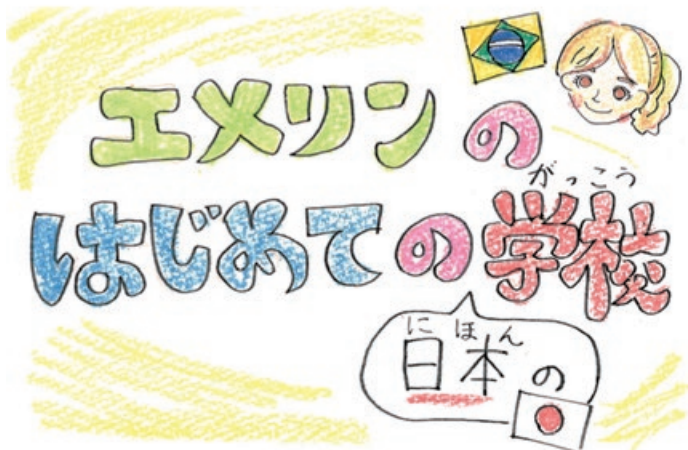
## 進め方

紙芝居でエメリンのカルチャーショックを紹介して、文化の違いに気づかせたり、エメリンの考えや気持ちを想像させたりする。

1	<p>最初は、「クラスメイトから見たエメリン」のスキットを使って読む。 「これから、ブラジルという外国から日本の学校に転入してきた女の子（エメリンちゃん）の物語を読みます。エメリンちゃんのことで、何かおかしいなあと思うことや、日本のお友達や先生がどうしてびっくりしたのかを考えながら聞いてみてください。」</p> <p>「どうでしたか？どんなことに気が付きましたか？」</p>
2	<p>次に、同じ紙芝居を「エメリンから見た日本の学校」のスキットを使って読みます。</p> <p>「では、今度は、同じ紙芝居を、エメリンちゃんの気持ちで読んでみます。どうしてエメリンちゃんがあのようなことをしたのかを考えながら聞いてみてください。」</p> <p>「どうでしたか？ブラジルと日本の文化では、違うことがあるみたいですね。日本に来たエメリンちゃんは、それが理由で戸惑ったようでしたね。」 「みんなのお友達にも、外国からきた子がいるかもしれませんね。そのようなお友達に対して、どのように接しようと思いますか？」</p>



0



### クラスメイトから見たエメリン

エメリンのはじめての学校

### エメリンから見た日本の学校

では、もう一度同じお話を読みます。今度は、エメリンから見た、日本の学校のお話をするので、エメリンの気持ちを考えながら聞いてみましょう。

1



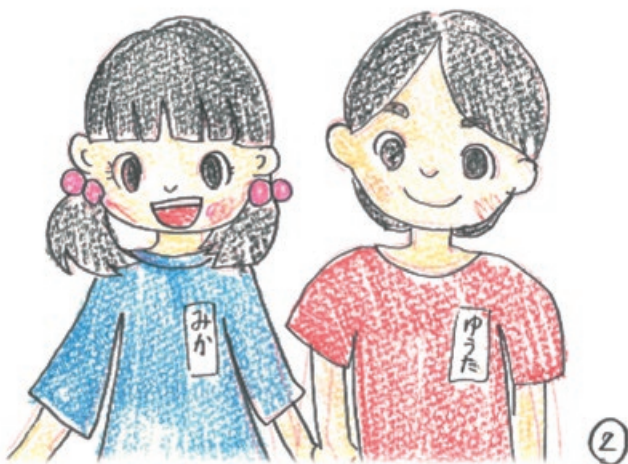
### クラスメイトから見たエメリン

ブラジルから、転入生が来たんだって。

### エメリンから見た日本の学校

私はエメリン。ブラジルから日本の学校に転入してきたよ。たくさん友達ができたらいいな。

2



### クラスメイトから見たエメリン

ぼくは、ゆうた。私は、みか。先生に転入生の子に学校のことをいろいろ教えてあげてねってたのまれたよ。

### エメリンから見た日本の学校

あ、この男の子と女の子は同じクラスの子だな。やさしそうだな。

### クラスメイトから見たエメリン

あ、この子がブラジルから来た転入生の子だな。「おはよう！ぼく、ゆうた。」

### エメリンから見た日本の学校

あいさつをしてくれた！私もあいさつをしよう。



### クラスメイトから見たエメリン

「わたし、エメリン。よろしくー！」  
 (ゆうたの心の声)  
 「わ、なんだ！だきつかれそうぞ！」

### エメリンから見た日本の学校

「わたし、エメリン。よろしくー！」  
 (ハグをしようとする。)



### クラスメイトから見たエメリン

「よ、よろしくね……。」「びっくりしたなあ。」

### エメリンから見た日本の学校

あれ、離れちゃった。なぜだろう……。私、くさいのかな。  
 ※ブラジルでは、多くの人が初対面の人でもハグをする。



6



### クラスメイトから見たエメリン

「あ!!エメリンちゃん。だめじゃないか。」

### エメリンから見た日本の学校

今度は、怒ってる!なんだろう?

7



### クラスメイトから見たエメリン

「学校には靴ではいっちゃんいけないだよ。上履きに履き替えなくっちゃ。」

### エメリンから見た日本の学校

どうやら、くつがいけないみたい。周りを見たら、みんな同じような靴をしている。変なの。ブラジルでは、学校に入るときに靴を履き替えたりしなかったのに。

8



### クラスメイトから見たエメリン

エメリンちゃんが転入してきて、何日かが経ちました。

授業中、先生が

「エメリンさん、この問題の答えは?」

「知りません。」

「何ですって、昨日授業でやったでしょう。知らないって何ですか?」

### エメリンから見た日本の学校

授業中

先生の言っていることが分からないから、「知りません。」って言っているのに。何がいけないの。



### クラスメイトから見たエメリン

中休み、みかはエメリンちゃんを遊びに誘いました。

「ドッジボールをしようよ。」

「チッ！（舌打ち）いいね！」

### エメリンから見た日本の学校

ドッジボール！楽しそう！（チッ）

あれ、よい意見だなと思ったんだけどな。だからチッてしたのに、みんな困ったような顔をしている。どうして？



⑨

### クラスメイトから見たエメリン

「え、今、チッていった？嫌な感じだなあ。」「エメリンちゃん、本当は一緒に遊びたく無いんですよ。無理しなくていいよ。」

### エメリンから見た日本の学校

みんなと仲良くなりたかったのにどうしてだろう。



⑩

### クラスメイトから見たエメリン

### エメリンから見た日本の学校

エメリンちゃんもみんなもにこにこになるにはどうすればいいのでしょうか？



⑪

## 紙芝居の解説

紙芝居番号 ③ ④ ⑤	ブラジルでは、相手と会った時に抱きしめたり、話している時にボディータッチ（髪、肩、手に触ったりする）したりするのが普通なので、自然に出してしまった。特にあいさつは初めて会った人でも、ハグをしてほほにキスすることもある。
紙芝居番号 ⑥ ⑦	ブラジルの学校では、外履きと上履きの区別がないことが多い。そのため、外履きのまま学校に入ってしまった。
紙芝居番号 ⑧	ポルトガル語では『知らない』と『分からない』は同じ言葉を使う。日本語の「わかりません」と「知りません」の意味の違いがわかっていなかったため、なんでも「知らない」と答えてしまい、相手に嫌な印象を与えてしまった。
紙芝居番号 ⑨ ⑩	ブラジルでは舌打ちをして『チッ』の音を出すことが普通で、無意識でしている時がほとんど。日本のようにイライラしている時や、頭にきた時には使わない。ブラジルでは考えている時、何かを思い出した時、思いついた時、予想が当たった時などに舌打ちをする。

この紙芝居は、JICA 横浜のホームページに掲載しています。  
全ページを両面印刷して使用するか、画面で映写してご使用ください。

JICA横浜 教師海外研修

検索 

# 「あたりまえ」ってなんだろう？

## キーワード

多文化共生、あたりまえ、他者理解、マイノリティ

## はじめに

本ワークショップは、ロールプレイを通じて、自分の「あたりまえ」が通用しない体験をさせることで、マイノリティ(少数派)の気持ちになること(他者理解)や、誰もが安心して違いを出しながら豊かになる、多文化が共生する文化(多文化共生)について考えさせるものです。

日常生活においても外国人と接する機会が増えています。言語や生活習慣等の違いから、外国につながる人々(外国籍の人、外国籍の人と血縁関係がある人など)をめぐる様々なトラブルが発生することがあります。また、文化の違いを考えずに一方的に価値観を押しつけることで双方に予期せぬ問題が生じるケースもあります。これらはなかなか経験できないことである一方で、これからの生活では多く生じることも考えられるのではないのでしょうか。

そこで、私たちは生活習慣に焦点をあてて、小学生でも中学生でも高校生でも楽しめるワークショップを作りました。ある表彰式に学校の代表として招待された4名が、役割を演じながら、行き方や食事など4つの項目を決めていくロールプレイ型ワークショップです。このワークショップを通して、子どもたちが「ここで感じたことは実は普段から私たちが経験していることかもしれない」と実生活に置き換えて考え、自分と異なる意見も尊重し、よりよい人間関係を形成していこうとする態度を養っていきける一つのきっかけづくりになればよいと思い作成しました。世界の人々に生じる課題に対して「自分に何ができるのか」という気づきを促すワークショップを目指しました。

## 対象

小学生、中学生、高校生

## 活用できる教科

総合的な学習(探究)の時間、道徳、社会科 など

## ねらい

- ①自分と異なる意見も尊重し、共に生きる世界のために、よりよい人間関係を形成していこうとする態度を養う
- ②個人の行動の背景にある様々な見方・考え方に気づき、自分の見方・考え方を広げ深める

## 教材内容：

解説書 / 表彰式の案内 / 計画シート / 役割カード / あたりまえカード

所要時間	45分～	準備するもの	表彰式の案内(グループに1枚) 計画シート(グループに1枚) 役割カード(グループに1セット) あたりまえカード(グループに1セット)
1グループの人数	4名		

(全体の人数の関係で4名が難しい場合、3名のグループでも可。役割の都合上5名は適さない。)

## 進め方

<p><b>導入</b></p>	<p>4名のグループで着席させる。</p> <p><b>発問をしながら、テーマに関する意識づけをする</b></p> <p>※違いを感じることや、感じる時を具体的にイメージさせることで、 テーマが自分自身の生活と結びついていることを意識させる</p> <p>「人と違うと感じたことはありますか？」 「そう感じるのはどんなことですか？」「そう感じるのはどんな時ですか？」</p>
<p><b>ルール説明</b></p>	<p><b>役割カード、表彰式の案内、計画シートを配布する</b></p> <p>※役割カードはA~Dまでであるので、4名で適宜分担するように伝える 「これから、各役割になりきって話し合いをしてもらいます。 役割カードを配りますが、他の人には絶対に見せないでください。」</p> <p><b>ルールの説明</b></p> <p>「みなさんは、学校の代表としてある表彰式に招待されました。おめでとうございます。」 「そこで、4名で出席してほしいのですが、配布した計画シートには、決めてほしい項目が4つ書かれています。」 「今からやってほしいことは、4名で話し合っ、4つの項目を決めることです。 ただし、絶対に守ってほしい3つのルールがあります。」</p> <p>ルール①役割カードを他の人に見せないこと ルール②役割になりきって話し合うこと ルール③時間内で計画を立てること</p> <p><b>役割カードを読ませる</b></p> <p>「それでは、まず自分の役割カードをよく読んでください。」 「役割になりきる準備はできましたか？」</p> <p><b>ロールプレイの開始</b></p> <p>「それでは、まず項目1について、2分間で話し合ってください。よいスタート！」</p> <p><b>時間が来たら終わりの合図をする(各項目2分間)</b></p> <p>「次に、項目2について2分間で話し合ってください。よいスタート！」</p> <p><b>時間が来たら終わりの合図をする(各項目2分間)</b></p> <p>※項目3、項目4についても同様に進める。 ※時間があれば、各グループの計画をいくつか聞いてみてもよい。</p>
<p><b>話し合いの感想の共有</b></p>	<p><b>何人かに感想を聞いてみる</b></p> <p>「話し合いをしてみて、どうでしたか？」など</p>
<p><b>あたりまえカードの共有</b></p>	<p><b>『あたりまえカード』を配布する</b></p> <p>※各自が読む時間を設ける。 「それでは、今から『あたりまえカード』を配りますので、A~Dそれぞれ自分のカードを静かに読んでみてください。」</p> <p><b>『あたりまえカード』を共有させる</b></p> <p>「では、役割Aの人から順番に、自分の『あたりまえカード』を他の3人に読んであげてください。」</p>

<p><b>ふりかえり</b></p>	<p>「自分だけが他の3人と違う考えを持っていた項目があったはずですね。」  「自分にとっての『あたりまえ』が他の人にとっては、そうではなかったのですね。」  「日常生活で、文化の違いなどから、同じような経験をしている人がいるかもしれませんね。」  などと伝えた上で、  <b>以下のような発問をしながら、気づきを引き出す</b></p> <p>「自分だけが他の3人と違う考えを持っていた時、どのような気持ちになりましたか？」  「もし、はじめから相手の『あたりまえカード』の内容を知っていたら、あなたはどのようなことに気をつけて話し合いをしていましたか？」  「『あたりまえカード』の内容を知る前と後では、他者を理解することについて何か考えが変わったことはありますか？」</p>
---------------------	--

「2018年度 JICA 横浜教師海外研修報告書」(冊子および JICA 横浜ホームページにも掲載)には、以下の校種・教科での実践事例があります。

- 小学校6年生「総合的な学習の時間」
- 小学校6年生「道徳」
- 中学3年生「道徳／総合的な学習の時間」
- 高校3年生「国際関係」

実践の工夫や児童生徒の反応、本書には掲載しきれなかったアレンジ版等、ぜひ参考に見てみてください。

また、JICA 横浜ホームページには、本書のPDF版が掲載されていますので、カードやシートなどを印刷することができます。

JICA横浜 教師海外研修

検索 

# ひょうしょうしきのあんない 表彰式のご案内

学校 年 代表者様

会場： \_\_\_\_\_ ホテル  
( \_\_\_\_\_ 駅より徒歩3分)

日時： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( ) ※通常授業がある日の放課後です  
17:00 開場 \_\_\_\_\_ 17:30～18:30

注意：必ず一度帰宅してからお越しください

※表彰式終了後の18時30分より、会場の掃除を予定しております。  
お時間のある方はご協力ください。

# ひょう しょう しき けい かく 表 彰 式 計 画

## ① 駅での集合時間

## ② 表彰式の服装 【きちんとした服装・おしゃれな服装】

## ③ 食事 【みんなで一緒に行く・行かない】

## ④ 会場のそうじ 【そうじする・そうじしない】

※一つにつき時間内で必ず決めて下さい！ 時間は限られています！



## 【役割カードA】

山折り

### 【役割カードA】

#### ◆ 役割 ◆

- 意見をまとめるリーダー
- どんなときにもみんなで一緒に行動したい
- 最近買った新しい赤いTシャツを着ていくのが楽しみ
- ごはんのメニューを選ぶのが大変だから人と一緒にごはんを食べたくない

#### ★ セリフの例 ★

「みんなで行動したいから、必ず一つの意見にまとめようよ！」

「服装は自由でいいと思うよ！」

「みんなでやれば掃除も楽しいよ！」

「帰りのご飯は一緒に食べないでそれぞれ家で食べようよ。夜遅くなっちゃうし、お金もないしさ。」

#### じゅうよう 重要

帰りのごはんだけは絶対にゆずっちゃダメだよ！



掃除だけは絶対にゆずっちゃダメだよ！

## 重要

「学校から家が遠いから、16:30以降にしか集合できないよ。」  
 「せっかくの表彰式だから自由におしゃれして行こうよ。」  
 「えー！掃除なんて絶対したくないよ。」  
 「なんで私たちが掃除しなくちゃいけないのか意味がわからないよ。」  
 「家で話したらびくびくされちゃう！」  
 「帰りのごはんはみんな一緒がいいな。これが、一番楽しめたかったんだ。」

## ★セリフの例★

- 家が遠いため帰宅してから遊びに行けるのは16:30以降
- 掃除をする意味がわからないから掃除はしない
- おしゃれをするのが大好き
- 表彰式後にみんなで夕食を食べに行くことが一番の楽しみ

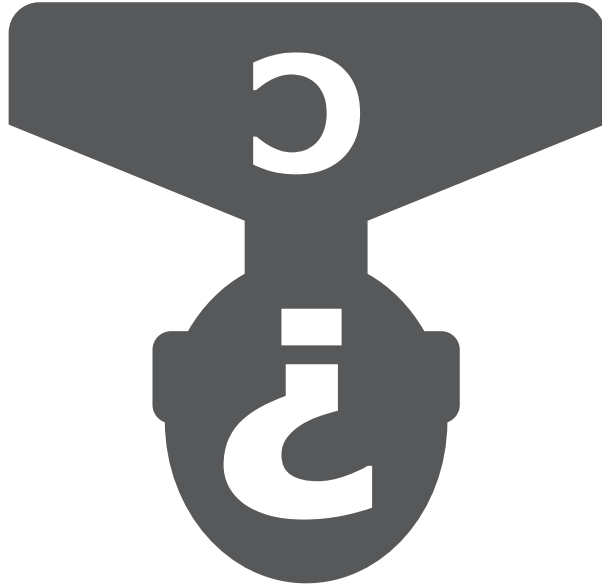
## ◆役割◆

【役割カードB】

山折

# 【役割カードB】





## 【役割カード④】

山折り

### やくわり 【役割カード④】

#### ◆ 役割 ◆

- 学校を早退したことも休んだこともない
- ズルや不正など曲がったことが大嫌いなリーダー
- 学校の代表として参加することへの責任意識が強い
- 表彰式には失礼のないきちんとした服装で参加したい

#### ★ セリフの例 ★

- 「学校は早退せずに帰りの学活まで出てから帰って、16：30に集合しよう！」
- 「表彰式におしゃれなんてへんだよ。正式な場でそんな服装するなんて失礼だよ！」
- 「普段からやっているし、案内に書いてあるのだから掃除まで参加しよう！」
- 「代表として参加したのだし、このメンバーでお疲れさま会したいよね。」

#### じゅうよう 重要

表彰式にきちんとした服装で行くことだけは絶対にゆずっちゃダメだよ！

13:00集合は絶対にゆずっちゃダメだよ！

## 重要

「学校を帰ってから十分に時間があるよ！だから13時集合にしようよ」  
 「16時集合じゃ帰ってからの時間が遅いよ！長い時間一緒にいるのが親友でしょ！！」  
 「アクセサリーもつけたいし、おしゃべりしていいよ！」  
 「使ったら掃除するのはアナーだよね。」  
 「できるだけ一緒にいたいし、夕飯も一緒に食べようよ！」

## ★セリフの例★

- 自由な時間はできるだけだけみんななといたい
- 昼には下校できるのだから13:00集合がいい
- 最近買ったピアスをしていくのが楽しみ
- 人のためになるような活動には積極的に参加する

## ◆役割◆

## 【役割カードD】

山折り

# 【役割カードD】





## 【Vegan 食べ残し】

山折り

### 【あたりまえカードA】

ちが 違い：メニューを選<sup>えら</sup>ぶのが大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>だから

ひと 一緒<sup>いっしょ</sup>にご<sup>ご</sup>は<sup>ん</sup>を食<sup>た</sup>べ<sup>た</sup>く<sup>く</sup>ない<sup>ない</sup>の<sup>の</sup>背<sup>はい</sup>景<sup>けい</sup> (理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>)

ベジタリアンやビーガンって知<sup>し</sup>ってるかな？実<sup>じつ</sup>は、肉<sup>にく</sup>を食<sup>た</sup>べないのが「あたりまえ」。私<sup>わたし</sup>のいたアメリカなどの欧<sup>おう</sup>米<sup>べい</sup>の国<sup>くに</sup>では、野<sup>や</sup>菜<sup>さい</sup>専<sup>せん</sup>門<sup>もん</sup>のレ<sup>れ</sup>ス<sup>す</sup>ト<sup>と</sup>ラン<sup>らん</sup>やス<sup>す</sup>ー<sup>す</sup>パー<sup>ぱー</sup>など<sup>など</sup>もた<sup>た</sup>く<sup>く</sup>さん<sup>さん</sup>見<sup>み</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>。日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>に<sup>に</sup>来<sup>き</sup>て<sup>て</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>は、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>と<sup>と</sup>同<sup>おな</sup>じ<sup>じ</sup>よ<sup>う</sup>な<sup>な</sup>ベ<sup>べ</sup>ジ<sup>じ</sup>タ<sup>た</sup>リ<sup>り</sup>ア<sup>あ</sup>ン<sup>ん</sup>や<sup>や</sup>ビー<sup>びー</sup>ガ<sup>が</sup>ン<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>ほ<sup>ほ</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>ど<sup>ど</sup>見<sup>み</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>ら、周<sup>まわ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>だ<sup>だ</sup>し<sup>し</sup>づ<sup>づ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>…。日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>では<sup>では</sup>ベ<sup>べ</sup>ジ<sup>じ</sup>タ<sup>た</sup>リ<sup>り</sup>ア<sup>あ</sup>ン<sup>ん</sup>や<sup>や</sup>ビー<sup>びー</sup>ガ<sup>が</sup>ン<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>メ<sup>め</sup>ニ<sup>に</sup>ュ<sup>ゆ</sup>ー<sup>ー</sup>を<sup>を</sup>用<sup>よう</sup>意<sup>い</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>お<sup>お</sup>店<sup>てん</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>見<sup>み</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>し、お<sup>お</sup>店<sup>てん</sup>選<sup>せん</sup>び<sup>び</sup>で<sup>で</sup>み<sup>み</sup>ん<sup>ん</sup>な<sup>な</sup>に<sup>に</sup>迷<sup>めい</sup>惑<sup>わく</sup>を<sup>を</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>な<sup>な</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>だ。

アメリカや南アフリカなど、学校や家で自分から掃除をすることなんてない国もたくさんあるんだ。日本では、ごみを落としたり自分で拾ったり、自分で脱いだ靴を並べたりするよね？ としても不思議。私のいた国の「あたりまえ」では、掃除をする仕事の人がいるから、自分でやってしまおうとその人たちの仕事をうばってしまうことにもなるし、周りの人に見られたり笑われたりされることがあるよ。実は日本のように学校で掃除をする国は海外にはほとんどないんだよ。日本では学校の掃除は自分たちでするけど、他国だと学校の掃除は職業になるからね。でも、この話し合いでは、自分の「あたりまえ」が通用しなかつてびっくりしたね。

掃除には参加しないの背景(理由)

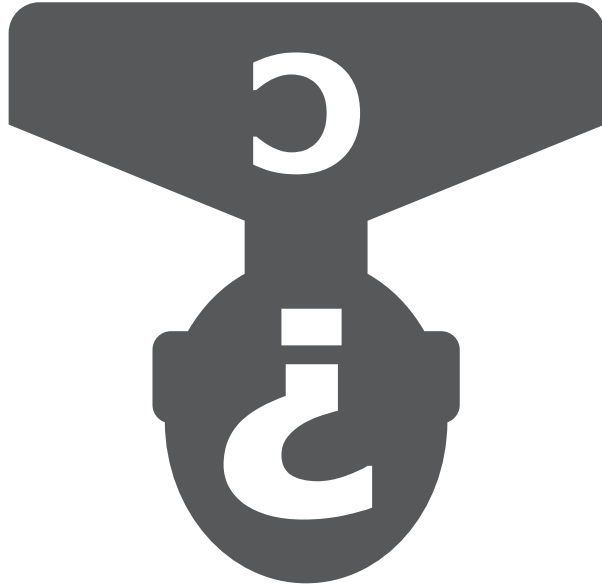
違い: 掃除をする意味がわからないから

【あたりまえカード③】

山折 川

## 【あたりまえ カード②】





## 【あたりまえカード㊦】

山折り

### 【あたりまえカード㊦】

ちがひ びやうしやうしき しつれい  
違い：表彰式には失礼のない

きちんとしてたふくそ さんか はいけい りゆう  
きちんとした服装で参加したいの背景(理由)

にほん せいしき ば ふくそ とどの かっこう  
日本では、正式な場では服装を整えてきちんとした格好をするのが「あたりまえ」だし、私たちくらいの子どもだと、お化粧品やアクセサリーをすることは「きちんとした格好」とは呼ばれないよね。だけど日本以外の国では、お化粧品をしたりピアスをつけたりして学校に行くことが「あたりまえ」の国も多いらしいんだ。もちろん正式な場でも失礼にならないから、アクセサリーをつけたり、おしゃれをしたりしても誰も気にしないんだって。でも、この話し合いでは、自分の「あたりまえ」が通用しなくてびっくりしたね。

日本では、夕方までに勉強し部活やクラブ活動をしてから下校することが多いよね。でもアメリカなどの外国の学校は午前・午後の半日制だから、午前か午後のどちらかは自由な時間になるのが「あたりまえ」。日本に来ているのをついつい忘れて自分のあたりまえで話をしてしまっただよ。さほりたいたい意味ではなかったのだけれど…。日本の学校に通っている子からはうらやましいって言われることが多いけれど、アメリカではどこかひそりで外を歩くのはとても危険だから、親に送り迎えしてもらってあたりまえなんだよ。

### 13:30集合がよいの背景(理由)

違い：昼には下校できるのだから

【あたりまえカード①】

山折り

## 【あたりまえ カード①】





独立行政法人国際協力機構  
横浜センター（JICA横浜）

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3220 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : [yictpp@jica.go.jp](mailto:yictpp@jica.go.jp)

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>







